

2023
特選

全国公民科・社会科
教育研究会会長賞

第21回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

「本当」の子ども食堂の姿

京都府・京都橘高等学校 1年 羽阪 彩音

学校から帰ってきたとき、子ども食堂の特集をテレビで見て、幼いときの子ども食堂に参加した記憶が蘇^{よみがえ}った。子ども食堂とは、「子どもが一人でも行ける無料または低価格の食堂」である。対象は子どもだけでなく、全ての人に参加することができる。子ども食堂の役割の中で利点を大きく4点挙げると、「子どもの孤食解消」や「貧困家庭に対する食の支援」、「地域の中のコミュニティーの一環になること」そして、「子どもに食育を行うこと」である。第一に挙げた子どもの孤食解消は、親が共働きの家庭やひとり親世帯の子どもたちが、食事を一人ですべてしている「孤食」を、子ども食堂で同世代の子どもたちやボランティアと大勢でアットホームな雰囲気^{あつぽうむ}で食事を共にとる「共食」で解消できるという役割のことである。第二に挙げた貧困家庭に対する食の支援は、子ども食堂の中にはレトルトカレーやカップ麺などの食料支援を行うところがあるが、多くは実際に栄養バランスを考えて作られた温かい食事が提供される¹⁾。子ども食堂は貧困家庭に対して、お金が尽きてしまったときや家に食べるものがないなどの緊急事態のときに直接、食の支援ができる。第三に挙げた地域のコミュニティーの一環になることは、子ども食堂の参加者及び運営者は子ども以外にも、子育て世帯や高齢者などの様々な世代が集まっており、食事の提供以外にも子どもの遊びや学習支援といった多岐にわたる取り組みが行われていて、多世代の交流する場としても、子ども食堂は機能している。第四に挙げた子どもに食育を行うことは子どもたちが食経験を広げることができる。例えば、子ども食堂の中には実際に子どもが調理、配膳に携わるところがある。

しかし、その一方で欠点や難点もあり、2点取り上げる。まず一つ目は開催頻度が少ないことである。厚生労働省のデータによると、子どもの貧困率は2012年以降はやや減少傾向が見受けられるものの、それでもおよそ9人に1人の子どもが貧困であることが分かった。また、そのデータの相対的貧困率の項目

では、依然として数値にあまり変動がなく、およそ7人に1人が貧困であることが分かった²⁾。「相対的貧困」とは、国や社会で大多数の生活水準より貧しい状態をさす³⁾。つまり、貧困は身近に潜んでいるということだ。そのうえ、最近では物価上昇によって生活コストが全体的に上がっているため、さらに貧困家庭は金銭的に苦しい状況が続いている⁴⁾。しかし、そのような状況下で、月に1、2回の開催と2週間に1回の開催の食堂が多くを占めている⁵⁾。この頻度だと貧困家庭に対して、一時の支援にしかすぎないと思う。その頻度で止まっている理由は、NPO法人むすびえのホームページによると、スタッフや運営資金、または場所の確保が追いついていないからだ⁶⁾。また、同じくむすびえの調査から、多くの子ども食堂も貧困家庭と同様に、物価上昇の影響を受けていることが分かった⁷⁾。

二つ目は子ども食堂に来て欲しい親や子どもに来てもらえないことだ。みなさんは子ども食堂に対してどのようなイメージがあるだろうか。私は子ども食堂に参加した経験があるので、賑やかで楽しいイメージを持っている。しかし、子を持つ世帯の親に対する子ども食堂のイメージ・認識調査で、親の性別・世帯収入に関係なく、「かわいそう」というイメージが約1割、「生活に困っている人が行くところ」という認識が約3割あることが分かった⁸⁾。また、実際に子どもが親に「貧困家庭だと思われるから、子ども食堂には行くな」という趣旨の言葉を言われたという話があったそう⁹⁾。このデータや話から、「子ども食堂＝貧困の人が行くところ」というイメージが一部の親に定着していると推測できる。たしかに、生活で困っている人は子ども食堂に行くし、多くの子ども食堂の目的の一つに「貧困家庭への支援」がある。しかし、子ども食堂は冒頭に挙げた通り、地域交流拠点や子どもに食育を行う場所としても機能している。貧困家庭への支援は子ども食堂の目的の一つにしか過ぎないということだ。「貧困の人が行くところ」というイメージが先行していて、例に挙げた他の目的や役割があまり知られていないのではないかと考える。実際に子ども食堂の悩みの中にも似た悩みが見受けられた。こういうイメージや認識が、子ども食堂に来て欲しい親や子どもに来てもらえない一因となっている。また、大人のその偏見やイメージが子どもに伝われば、子ども同士の中で「子ども食堂に行く子＝かわいそう」という認識が広まり、知らず知らずのうちにその認識が「全て

正しい」となってしまおうと思う。私自身まだ子どもだからこそ、子どもたちの世界は狭いということを実感しているので、そのようなケースが想定されると考える。これは一見、大したことのないように思われるが、そういう偏見やイメージこそが子ども食堂に行っている子を勝手に決めつけて、その子たちに疎外感や不安を与える一因になると考える。

そこでそれを無くすために何ができるかを考えてみた。それは子ども食堂の様々な役割や情報を、周りの友達や家族に「はじめから」正確に教えて子ども食堂の再認知を広めることや認知度を上げることだと考えた。そうして子ども食堂の他の一面を知ってもらうことで、マイナスな偏見やイメージを覆すことになったり、子ども食堂を知らなかった人に誤解を招くような偏見やイメージを与えず、知ってもらったりすることに繋がる^{つな}がると思ったからだ。また、認知度を上げることで、子ども食堂を知らなかった人で今、生活が苦しい人に届き、助けになるかもしれない。その認知度を上げるために私が実行できることは、古典的な手法だが、子ども食堂の開催日時や場所が記されたチラシを作って配ることだと考えた。紙だとあまり費用がかからず、チラシを配ることは難しい作業ではないため、学生の私でも取り組むことができる方策だと思う。さらに、大人数でチラシを配れば、確実に多くの人の上にチラシが渡るので、それなりの宣伝効果が見込めると考える。また、不特定多数の人々に見てもらうことでより幅広い世代に子ども食堂を認識してもらえるのではないだろうか。あるいは子ども食堂の再認知を実現させるために、私だけではできないことだが、子どもたちとその親に小学校や中学校の授業参観で「より良い地域づくりの一環」をテーマとして掲げた子ども食堂を体験してもらうことを考えた。子ども食堂では前述の通り、子どもに食育を行っているので子どもへの直接的な「学び」にもなる。また、「貧困家庭への支援」や「食育」をテーマとして掲げるよりも「より良い地域づくりの一環」として掲げることで、子どもにも大人にも、子ども食堂を身近で主体的に考えるきっかけになるだろう。敢えて、学校の授業として親しいクラスメイトや親と共に体験してもらうことで、子ども食堂の楽しさや面白さが伝わり、子どもたちやその親の中にある子ども食堂のイメージがポジティブな方向に変わっていくと考えた。そして、それが子ども食堂に来て欲しい家

庭に対して、子ども食堂に参加するハードルを下げることに繋がり、子ども食堂を必要としている人たちの参加を後押しするかもしれない。そうすることで、子ども食堂が年齢や体裁などの壁を超える、人と人の真の「つながり」になって全ての人々の居場所になるような、より良い地域づくりに貢献するだろう。

(注)

- 1) gooddo「こども食堂とは？目的やメリット、これからの課題、支援方法などについて解説」
URL https://gooddo.jp/magazine/poverty/children_poverty/children_cafeteria/
閲覧日 2023年9月14日
- 2) 厚生労働省「2022（令和4）年国民生活基礎調査の概況」
URL <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/dl/14.pdf>
閲覧日 2023年9月14日
- 3) 日本財団「子どもの貧困対策」
URL https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/ending_child_poverty
閲覧日 2023年9月14日
- 4) 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン「生活困窮世帯の子ども及び家庭に対する新型コロナ・物価高騰の影響調査報告書～中高生の子どもがいる保護者888名へのアンケート調査～」
URL <https://cfc.or.jp/wp-content/uploads/2023/04/230418report.pdf>
閲覧日 2023年9月14日
- 5) 農林水産省「子供食堂向けアンケート調査 集計結果一覧」
URL <https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/attach/pdf/kodomosyokudo-40.pdf>
閲覧日 2023年9月14日
- 6) 認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ「よくある質問」
URL <https://musubie.org/faq/>
閲覧日 2023年9月14日
- 7) 認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ「第8回『こども食堂の現状&困りごとアンケート』調査結果発表」
URL <https://musubie.org/news/7002/>
閲覧日 2023年9月14日
- 8) 黒谷佳代、新杉知沙、千葉剛、山口麻衣、可知悠子、瀧本秀美、近藤尚己「小・中学生の保護者を対象とした『子ども食堂』に関するインターネット調査」一般社団法人日本公衆衛生学会学会誌第66巻9号
URL https://www.jsph.jp/docs/magazine/2019/09/66-9_593.pdf
閲覧日 2023年9月14日
- 9) 東洋経済オンライン「『子ども食堂行くな』の言葉に隠された母親の本意」
URL https://toyokeizai.net/articles/_/647500?pn=3
閲覧日 2023年9月14日